第23回 高知県四万十川流域保全振興委員会（概要版）	
日　　時	平成30年10月18日（木）　13:30～16:10
場　　所	四万十町役場本庁舎（東庁舎）1階　多目的ホール
参 加 者	30名
配布資料	第23回 高知県四万十川流域保全振興委員会　会議次第 第23回 高知県四万十川流域保全振興委員会　出席者名簿 第23回 高知県四万十川流域保全振興委員会　配席図 議題1（1）関係資料 資料1　四万十川沈下橋保存方針の一部改正について 参考資料1　四万十川沈下橋保存方針 議題1（2）関係資料 資料2　四万十川に係る平成34年度目標指標（案）について 資料3　平成34年度目標指標（案）改正一覧 資料4　平成34年度目標指標（案）検討資料 参考資料2　平成34年度目標指標（案）参考資料 報告事項・協議事項（1）関係資料 資料5　椨原川河川状況調査会における評価と検討（概要） 参考資料3　報告事項（流域全体の課題共有）

議　事　録

○委員の開催要件の充足

委員14名のうち12名が出席。委員の過半数の出席のため、会の開催要件を充足。

○本会の議題

1　四万十川沈下橋保存方針の一部改正について

2　四万十川条例に係る平成34年度目標指標（案）について

○報告事項・協議事項

1　椨原川河川状況調査会における評価と検討（概要）　5　その他

○各議題について

1　四万十川沈下橋保存方針の一部改正について

【事務局】

議題1関係資料に基づき、四万十川沈下橋保存方針の一部改正について説明。

10 月 24 日までパブリックコメントを実施している。

【中越会長】

四万十市の会議でも沈下橋の老朽化に対する修理方法について議題になっており、外から見てあまりにも極端でないかぎりは、新しい素材や方法で対応するということになっている。遺跡等の建造物とは意味合いが違うため、このような考え方で良いと思う。

事務局は、48 橋全部を統一的に見るという立場については議論されたか。

【事務局（主査）】

重要度別に 48 橋を２種に分けている。個々の沈下橋については素材等もさまざまなため、それぞれで対応していくようになると考えている。

【中越会長】

パブリックコメント終了後に県庁内で再度協議し、最終案を事務局から委員のに連絡する。書面審議にて可決となった日をもち、当該案件について可決とする。

２　四万十川条例に係る平成 34 年度目標指標（案）について

【事務局】

議題２関係資料に基づき、四万十川条例に係る平成 34 年度目標指標（案）について説明。

【中越会長】

新たに追加もしくは新しい算定方法にした項目のデータは過去に遡って把握することは可能か。

【事務局（主査）】

新規提案項目については、可能な範囲で過去に遡れると考えており、また、流域の交流人口の状況についてもできる範囲で遡って集計したい。

【飯國委員】

資料３【８】について、観測地点を具同以外にも増やすことはできないか。

【事務局（主査）】

水文水質データベースを確認し、過去のデータを遡ることが可能な地点を増やせるようであれば追加したい。

【中越会長】

資料３【11】について、今後目標値そのものは設定しないということだが、現在はこの目標値（５団体、19,345ha）を下回っているのか。

【事務局（課長補佐）】

現在は実績が目標数値を上回っている。しかし、この指標は間伐が計画的に行われているかや、作業道が環境に配慮されているかといった視点で適正に計画・実行されていれば認定ということになるが、そういった管理しなければならない森林が伐採する時期に達しており、今後認定を受けている森林が減る可能性があるため、目標数値を設定しないこととした。

【アウテンボーガルト副会長】

イノシシやシカの害についての項目を新規項目として追加してはどうか。

【中越会長】

被害額についても数字で出てきており、過去にも遡れるはずである。

【事務局（課長）】

旧市町村単位での集計は難しく、現状の市町村単位になると考えている。

【中越会長】

現在の参考とし、例えば実線でつながずに点線にして参考値であることを示すとしてはどうか。

【事務局（課長）】

市町村もそうだが、被害額についても、一度確認してからにしたい。

【飯國委員】

資料３【12】【15】について、「環境保全型農業」と「低農薬」は、意味がかぶってしまうと思う。【12】は有機農業だけでなく、もう少し「環境保全型」を広く捉えるか、中を分割したほうが良い。止水板を補助金で作っているところもあるが、そうした活動をうまく支援したり、モニタリングしたりといった動きがあっても良いと思う。加えて【14】耕作放棄地の面積について、高知県農業会議が荒廃地調査を行っており、そちらのほうがよりフィットする可能性がある。最後に【13】リサイクルの肥料について、畜産の活動に影響されるのならば、絶対値ではなく、出てきた肥料を飼養頭数から推計し、その中から何パーセントリサイクルしているかとしたほうが良いのではないか。

【岡村委員】

資料３【20】【22】について、整備率は今後大きな変化はないため、例えば速度別の普及率にしてはどうか。また、道路改良率も飛躍的に変わることはないと思う。一方で、県が進めている 1.5 車線的道路整備や中山間道路走行支援装置、道路情報板の事前通行規制区間に電子情報板を入れる取組といったことについて、アウトプットとして集計を行うのも良いと思う。

【中越会長】

資料３【22】水難事故の発生件数について、流域に住んでいる方の事故と県外の方の事故は違ってくると思う。ここを分けなければならないのではないか。

【植田委員】

住民の安全性や快適な生活が保たれていることの指標として、水難事故者というネガティブな数字を集計することは合理性に欠けているように思う。

【西内委員】

国土交通省、警察、消防、県の協力を受けているイベントの会のデータとして、事故の発生率や過去 50 年分ほどの事故の詳細がある。

【中越会長】

そちらのデータのほうがより正確だと思う。この件は西内委員と話し検討してほしい。

【平塚委員】

仮に県外の方の水難事故であっても、行方不明者の捜索に地域住民が動くことになり、地元と無関係ではない。

【中越会長】

捜索に関し、各日何名が行ったかという数字が追跡できれば、安全な生活の指標にできるかもしれない。再度、事務局で内容について検討してほしい。

【アウテンボーガルト副会長】

資料３【32】について、農家民宿の新規開業は無い一方で、Ｂ＆Ｂ等の様々な形態の宿ができているため、農家民宿と限定しなくても良いと思う。

【中越会長】

資料３【36】について、地域の木材を使っていれば建物に限定しなくても良いのではないか。公共工事等も加えて対象をもう少し広くできないか。

【事務局（課長補佐）】

公共事業に関して、建設工事に木材を使用した件数は全部押さえており、指標として入れることはできる。県のほうで目標を設定しているため、こちらでも同じ目標値にしたいと思う。

【アウテンボーガルト副会長】

資料３【38】について、グリーンツーリズムの交流人口＝四万十川すみずみツーリズム連絡会登録施設の宿泊人数とするのであれば、バラエティーに富んだ会員施設の中からどう集計したら良いかについて、事務局とすみずみツーリズムで整理する必要がある。

【植田委員】

資料３【41】について、道の駅の利用者数を把握するのであれば、何らかの係数をかけて地元利用者数を減らすといった調整が必要である。

【事務局（課長）】

それぞれ客層が違うと思うので、集計方法について検討する。

【岡村委員】

資料３【40】について、四万十川を大事にしようという意識が高い方々を増やすことは本来とても重要なことであるため、目標値を設定したほうが良いのではないか。

【事務局（課長）】

平成 29 年度から運用している生物多様性こうち戦略推進リーダーの登録制度も含め現状、人数が増えておらず、現段階で目標値を設定しても達成しないと考えているが、県としてももっと数を増やしこうした活動を広げていきたいという思いはあるため、しっかりとやっていきたい。

【飯國委員】

資料３【48】について、内容が漁具の保存だけに特化してしまっており項目と相応していない。項目自体を「伝統漁具の保存」に変更するか、漁法であればデータやビデオを加える等もっと広く捉えてはどうか。

【溝渕委員】

資料３【46】から【50】について、それぞれ件数は今後それほど変わらないと思う。それよりも、これらの物件をどう活用しているのかという数字が出てくると地域の活性化が見えてくると思う。保存と活用の両方を動かしていくことが今後の四万十川流域の歴史・文化、その地域の住民が活性化していく一つの指標になると思う。数は数で残しておき、活用した物件数を点線等で挙げていったら良い。

【中越会長】

資料３【55】について、高知県の太陽光発電等に対する見解や方針はどのような状況なのか。

【事務局（課長）】

県内全体としては太陽光発電を増やしていこうという考えだが、その際現状として都市部の空いているスペースではなく中山間の山を切り開いて設置しており、周辺住民との軋轢を生んでいる。この数値には、周辺への負荷を掛けている施設であるという考え方と、県としては新エネルギーを推進したいという両面がある。数値自体を削除するという今回の提案は、流域で数値がどう動いているのかを継続的に把握するこ

とを否定するものではなく、そこはみなさまにご審議いただきたい。

【平塚委員】

当項目はこれまで行政が主体となる項目となっていたが、これを住民主体とし、各家庭の屋根に設置しているソーラーパネルの件数を集計してはどうか。

【岡村委員】

今の時代、新エネルギーに関する指標が入らないのは非常に違和感がある。

【事務局（課長）】

電力会社に売電している分は数値をおさえやすいが、自家消費分については把握できない状況である。どのような数値が拾えるかを検討する。

【アウテンボーガルト副会長】

資料３【54】について、現在レジ袋有料化の動きが出てきているので、またデータの取り方も違ってくると思う。

【事務局（課長）】

国の動きもあるかもしれないため、具体的に動きがあったタイミングで検討する。

【アウテンボーガルト副会長】

前回見直し以降の状況変化として、四万十川流域のＩターン、Ｕターンの方々の増加がある。人口のデータに加え、新たに流域のＩ、Ｕターンの数を把握してはどうか。この数は保全・振興に大きく関わると思う。

【事務局（課長）】

指標としてＩターン、Ｕターンで転入される方の数字を把握したいということであれば行政がおさえている数値を示すことはできるため、関係課と協議する。

【平塚委員】

目標値を設定せずデータの積み上げのみを行っていく項目もあるが、それらを何らかのかたちで活かせる場所が必要であり、また、住民にも周知できる仕組みをもっておかなければいけないと思う。

【岡村委員】

四万十川条例にこのように多くの目標指標があるということを、流域市町村の観光の HP 等で広報する等、もっと PR していくことをご検討いただければと思う。

【中越会長】

今回出た意見を踏まえ、次回委員会までに再度内容を検討すること。

○報告事項・協議事項

1　梼原川河川状況調査会における評価と検討（概要）

【河川課】

報告事項・協議事項（１）関係資料に基づき、梼原川河川状況調査会における評価と検討（概要）について報告。

【山下委員】

資料５の水位低下運用のイメージについて、実際に効果があるといった事例はすでにあるのか。今後検討されるということなのか。

【河川課】

今回シュミレーションで効果が確認されたため、既に運用を始めている。四万十川と梼原川の合流点である大正において、両川を比較すると３日～４日ほど濁りの落ちるスピードが違う。また、津賀放水口では１日から２日違うという効果が確認されている。シュミレートでは、この運用を行うことで概ね１日程度の濁りの差を減らすことができるという結果を得ているが、その実効については、条件がそろわずなかなか確認できない状況である。

【山下委員】

湛水域が出来るとどうしても外来の魚類が増えてしまうのだが、これに対して何か考えておられることはあるか。

【河川課】

アユの専門家の高橋さんによると、今問題となっているブルーギルやオオクチバスによる大きな捕食の影響が起きているという報告は挙がっていないとのことであった。コクチバスといった俊敏に動くようなものも国内では確認されているが、それが四万十川にも入ってくるようになればきちんと検証していかなければならないとのことである。よって現段階では、県の水産振興部が平成 23 年に津賀ダムで調査した結果等はあるが、それ以上のことをやっていこうという方向性にはなっていない。

【中越会長】

外来種の件について、問題が顕在化する前に、発見したときにすぐ対策するのが最も経済的であり効果も高いと思う。また、四国地方整備局ではどうかわからないが、中国地方整備局ではダム湖に発生するブヨブヨとした緑の藻類まがいの物体を把握できていると思う。

以上